

金剛寺に鎮座する仏像・仏画の他、所蔵する絵画や、当寺にゆかりのある作家の皆さんの作品を展示。金剛寺の宝である人とその繋がり「結晶」である様々な宝物(ほうもつ)をご覧ください。

昨年の様子



新型コロナウイルスによる現状を踏まえて

昨今、なにかと大変な世情ではございますが、中でも一筋の光になれるのではないかと、今回のギャラリー開催を決意いたしました。今回の開催は、三密を避けるためなるべく展示スペースや展示間隔を広くとったシンプルなものとなります。換気等の対策はいたしますが、例年通りでは午前11時ごろからご来場者で賑わいます。ご来場の際は体調にご留意いただき、マスクの着用をお願いいたします。また、コロナの影響次第で日程変更・中止にも予想されます。手探りでの開催となりますが、何卒ご理解・ご協力をいただければ幸いです。



金剛寺ギャラリーについて

お寺をもっと身近に感じて頂きたいとの想いから過去3回開催致しました金剛寺ギャラリーですが、その後「また開催して欲しい」とのお声を多数頂きました。皆さまから頂いたそのお言葉に後押しされましてこの度、第4回金剛寺ギャラリーを開催する運びとなりました。金剛寺は初代・原正僧が築いてから三代に渡り真言宗の教えを伝える寺であります。歴史こそ浅いものの、ねぶた絵師や仏師の方々といった津軽の芸術文化の担い手たちと共に歩んできました。そんな当寺の根幹をなすものは「人とその繋がり」です。繋がりこそが文化・交流・発展の根源だと確信しております。今日一日を積み重ねての歴史であり、当寺はその途中であります。これまで、非常に多くの方とご縁を繋いで来る事が出来ました。そして、皆さんに支えられて生まれた当寺の宝物は近現代の地域の方々による物です。この方々によって当寺は心の安らぎとコミュニティの一助となるべく「荘厳」されております。その宝物を生んで頂いた地域の作家様達と金剛寺をもっと多くの方にとって頂きたいと考え、当寺の所蔵品他、作家の皆さんが所蔵する図像や仏像等を一堂に披露する機会を作るべく、お寺の「ギャラリー」として企画しました。当寺の「繋がり結晶」を展示公開するに当たり願う事は多くの方々へ文化・交流を知って頂くと同時に、作家様や我々が日々何を想いこの地域で活動しているのかを感じて頂きたいと心より願っております。



副住職

蒔田 大就



聖徳院 龍仙

ねぶた絵師/日本画家
津軽ねぶたの伝統、夜・石澤屋敷に由来し、ねぶた絵師、仏画・絵巻など数多く手掛ける。金剛寺駐在職として御前御供とつむぎ(ろく文)等、はるかなる仏像を手懸けられ、金剛寺が所蔵する仏画・仏像の中で最も多く手掛られている作家である。



小堀 寛治

仏師
先代・小堀五郎から継ぐ伝統的彫刻、向形に彫る仏像を始め、一般家庭の神棚に祀られる御神体やオランダさま等、人々の信仰に寄り添い彫る作家として活躍されている。金剛寺とは先づアーストを築き上げ自ら親交がゆかり、文化としての出来ない存在である。



HIROMASA

彫塑作家
市内所蔵の平戸社仏堂や中津屋敷でのお祭りイベントで御祭、幅広い活動をされている。金剛寺御在職が位置を創る活石彫・彫石山崎園院の御弟子である。毎年御祭される多くの御拝者を魅了し、御祭も趣向に大層に訪れる方も多い。



板庭 春實

絵・ねぶた絵師
先代・板庭春海から継ぐおねぶた・風船絵、金剛寺とは父である春海と共に幼少の頃から親交が深く、師匠としては金剛寺御在職に師事。2代に引継がれる金剛寺駐在大僧では多くの御拝者を魅了、お祭りでも数多く引き込まれるに御拝者に親しまれている。



蒔田 範好

住職/ねぶた絵師/日本画家
金剛寺御在職、若手・熊鷹寺で習得しての修行を継いだ後、絵を学ぶために弘前の御勤作作家である松本具彦道徳院に師事し、絵師として「蓮」の御号を授け持つ。日々お仏壇の御加護、ねぶた絵や風船絵などを製作し、金剛寺を守りながら「守りつゝ」御勤作を御勤作としてその中心になられている。



井上 信平

絵山田画家
株式会社172代表、島原県出身、若木田に暮らし青森県に移住し、金剛寺と同じ平田町八幡崎に事務所を構え、仏教式に親交が深い。金剛寺のホームページやカレンダー等を手懸けし、また今年度の金剛寺ギャラリーでは御勤作にたどり着くアイデアを御提供された。